



とのまるくん
[ダムイメージキャラクター]

因幡のくにの夢づくり

とのまる通信

第13号
2003・8・1

発行：国土交通省中国地方整備局 殿ダム工事事務所 鳥取県岩美郡因幡町宮下1221 TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9812 http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html

水害が起きることに
わたしら～も仕事
手伝いよ～たんよ!



モッコで土を選ぶ
米山二三さん(左)と米山益枝さん(右)。
[写真提供：米山富久さん]

そして家族を守ってきた。
今回は、その時代の苦勞を
知る方にお話しを伺い、
写真を見ながら
その時代にタイムスリップ
してみることに！



大正元年の洪水で丸山に流れついた
潘所橋。[写真提供：鳥取河川国道事務所]

昔の人はえらかった！



写真提供：山本鉄夫さん。「この中に親父が写るとるだけど、橋城にはこんな大きな川はないしょ〜。」と撮影場所が未だ不明。ご存じの方は、
殿ダム工事事務所までご一報ください！(山本さんは以前、橋城集落にお住まいで、殿ダム建設に伴い移転された方です。)



あつ！これは、今から作ろうとしている殿ダムの工法（ロックフィルダム）とそっくりだ！殿ダムもこのように石を積んで、水をせき止めるんだよ！



いつどこで撮影されたか不明だが、手積みであろうこの石積み技術に目を奪われる。これはどこで、何のために造られたのか、ご存じの方は殿ダム工事事務所までご一報ください。[写真提供：山本鉄夫さん]

表紙の護岸工事の風景写真を提供して下さった山本鉄夫さんに、昔の水害についてお話を伺おうとしたところ…「うら(私)より、野村徳五郎さんの方が詳しくだろうで！」という事で、野村さんにお話を伺うことに。野村さんは、以前国府町楠城集落の楠城橋近くにお住まいで、殿ダム建設に伴い国府町新町に移転された方です。どんなお話が聞けるのでしょうか。

語り手：野村徳五郎さん(77歳)

「昔は大きな夕立が降っただけで川があらけて(氾濫して)、橋が流れよ～った。」

「水害といやあ～、うちの松太郎じいさんが水害に合うて、自分家の母屋や、倉庫、味噌置き場が流されたという記録を残しとるわいや！(次ページの“水害見舞帳”の表紙に記載)

うら(私)が小学生の時なんかは、大きな夕立が降っただけでも神田橋(集落の作業道として使われていた橋)が流れてなあ～、よ～に困りよ～た。橋いうても集落の共同作業でかける一本橋で、水面すれすれの所にあるじゃ。だけえ大水の時はすぐ川の水かさが増して、橋がつかると。そんでもって大水の力にはかなわまい。だけえ、橋が流れるじゃ。その橋が流れちゃあ、橋を探しに下(下流)に行つてな～、拾石や殿付近に流れついとる橋見つけちゃあ、持ち帰ってつけ直しとった。

一本橋って知つたらう？1本の丸太を両岸に渡しただけ



田んぼの石垣を構築中と思われる、昭和35年の写真。人々は人力で、石垣を造り、雨による土地の流失を防いできた。[写真提供：米山喜久さん]



の橋だが、この橋は、人はバランスとって渡れるけど、牛は渡れまい。だけえ、川向こうの田んぼに行く時は、牛の背中にまたがって、牛の尻をたたきもって川の中を歩いて田んぼまで行っとったんで。」

◀野村松太郎さんが書かれた、大正7年8月10日の水害見舞帳。お金の他、むしろ、みの、味噌などの物資を誰からいただいたかという詳細が記載されている。

「川が家に寄ってくるじゃ！」

「大雨になったらな、ほんじきに(見る間に)水の勢いで土地が削られ、川が家に寄ってきてな、しまいには家が倒されるじゃで！昔の家は木造だろう、じきにめげるじゃ(すぐに壊れる)。流されるのは、家だけじゃのうて、田んぼも流失したな〜。大水が出るたびに削られて、3反ものうなただでえ！昔の事だけえ、自然災害は補償がのうてな…今ではうらげ(自分の所)の田んぼだった所が川になつとる。昔は大雨で家や田んぼが流されることがしょっちゅうありよ〜たじゃ。」



護岸整備を拾石地区の人々が行なっているところと思われる、昭和30年代の作業風景。この頃、まだダンプカーやショベルカーはなく、作業はすべて人力だった。[写真提供：米山富久さん]

わあ〜！

荒れ放題だあ！川が氾濫したあとかな？この時代は、村中の女性や学生も、作業を手伝っていたんだね！



「最近でも洪水被害があったで！」

「あれは忘れもせん、昭和6年、うら(私)が小学1年の時、念願のコンクリ(コンクリート)の楠城橋がかかってな、そりゃうれしかったぞいな！この橋をかける時に、川幅を広くして、その周辺を盛土して、道路と橋の位置も高くしただが、今でいう堤防を作ったわけじゃ。それ以来、橋は流れんようになったし、水害に合う事も減ったじゃ。

昔と比べりゃ、今は洪水被害は少のうなつたが、最近でも、拾石集落の道路がめげて(壊れて)通行止めになつてな、下(下流)に動めに出とる人は、グルッと大まわりして、山越えせなならん事があつたわいな。新井集落の前の道路も大水でめげた事もあつたな〜。

いくら護岸整備されても、大水の力ゆうもんはどえらい(すごい)けえな！松太郎じいさんが「川底で石のもくられる(ゴロゴロ転がる)音がしだいたら(しだしたら)油断ならん！」



大正元年水害あと。左：本町1丁目付近。右：鳥取市行徳聖神社裏付近。[写真提供：鳥取河川国道事務所]



いうとつたなあ。それと、「雨足が立つ」ような雨の降り方をしたらやばいじゃ。雨が1本線に見えるように激しゅう降りだあたらあんたも人事じゃない、気をつけんさいよ！」

ほんの50~60年前までは、大雨で家や田んぼが流失し、ひどい時には亡くなる人もいたんですよ！現在、これらの被害を教訓として河川改修や護岸整備が行なわれており、安全な暮らしを営めるようになりましたが、時に自然は猛威を振るい、洪水被害をもたらす事があります。

台風シーズンの到来は間近です！今一度、水害の恐ろしさを再認識して、気象情報などに注意してください。

洪水被害を防ぐための川のつくり方(治水の手法)



今年4月より新しく
就任した、石川進です。
よろしくお願ひします。



ダム工事事務所
石川進 所長

昔は堤防整備が十分でなかったため、大雨が降るとたちまち洪水被害を受けてきました。その教訓を元に、現在川の整備事業が各地で進められ、洪水被害は減少傾向にあります。しかし、世界的に異常気象が起こっている現在、いつ何どき、どんな大雨が降るかわかりません。

そこで、今回は洪水被害を防ぐためには、どんな川づくりの方法があるのか、一緒に考えてみましょう。

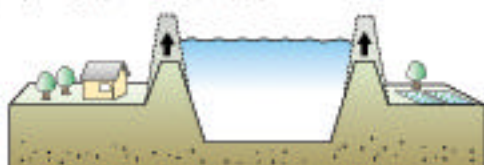


昭和54年、台風20号による水害。左：摩尼川内木、右：八頭郡用瀬町安蔵。[写真提供：鳥取河川国道事務所]

洪水被害を防ぐための川づくりあれこれ

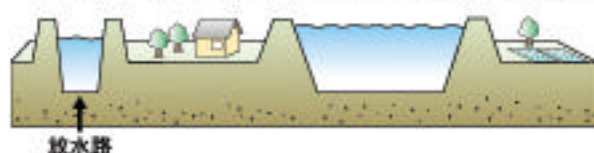
① 堤防を高くします

堤防を高くして、川の水が流れる所を大きくします。しかし、堤防の高さを上げ過ぎると、最高水位と地面との差が大きくなり、洪水時にはさまざまな危険度が増すため、ある程度の高さにはしか堤防を上げる事ができません。



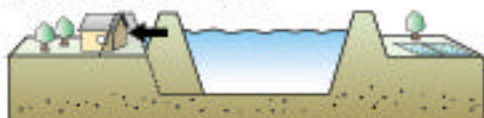
④ 近くに別の川をつくります

洪水が起こった時は、その一部を放水路に流し、川の水位を下げます。もともと川ではない所に新しく放水路をつくるため、家や工場、田畑の移転などに、多くの時間とお金がかかります。



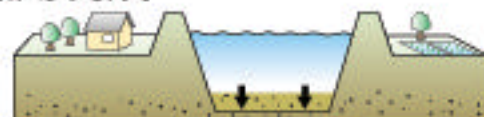
② 川幅を広くします

川幅を広げ、川の水が流れる所を大きくして、水位を下げます。しかし、川沿いにはたくさんの家や工場があるため、場合によっては、多くのお金と時間がかかります。



③ 川底を深く掘ります

川底を掘り下げ、川の水が流れる所を大きくし、水位を下げます。この方法は、洪水対策には有効ですが、工事によって、現在使われている水の取り口より水位が下がる可能性があります。また、海水が流れ込む可能性もあるため、河口堰を必要とする場合があります。



⑤ ダムをつくります

川の上流にダムをつくり、水をためます。洪水の時はダムに水の一部をためて、徐々に川に流すため、洪水の被害を防ぎます。



殿ダム周辺マップ

殿ダム建設予定地は、鳥取市内(JR鳥取駅)から車で約30分走った国府町の中山間地にあります。

こんな身近な殿ダムを知っていたら、これまでとのまる通信では、殿ダム周辺の様々な魅力をご紹介します。今回は、これまでご紹介してきた内容を地図上にまとめてみました!ぜひ一度殿ダム周辺へ足を伸ばしてみてください!

中国自然歩道



宮滝

雨滝

雨滝から河合谷に抜ける中国自然歩道は、滝や巨木がいくつもあり、こんな身近に秘境発見!という感じの場所です!(とのまる通信7号の特集)

国府東小学校



(とのまる通信4号の特集)

地元のドングリを拾い育て、殿ダム工事によりできたのり面(土を盛ったり、山を削ったりしてできた人工的な斜面)に植え、周辺環境に配慮した取り組みを行なっています。

旧大茅小学校

真冬に雪上運動会が行なわれていました。(とのまる通信6号の特集)

と地(空)で産る地酒と空に住む犬

歴史ある用水路及び棚田の保全を目的に、空に近い棚田で酒米を作り、オリジナルの地酒を作ろう!と大人が楽しく遊んでいます!(とのまる通信2号・12号の特集)

南城集落

藍色寺

拾石集落

神護集落

殿集落

殿ダム (完成イメージ図)

山持庵

薬師庵

旧成器小学校

校舎内で、コーヒーブレイク&絵手紙制作ができます!(とのまる通信12号の殿ダムNEWSに掲載)

吉野そばの館

毎週日曜日のみ営業。そば打ち体験有り!(とのまる通信10号の特集)

水辺の楽校

国府町に2箇所ある「水辺の楽校」。年間を通じ、比較的安全に川に遊ぶ事ができます。また夏場、子供の水遊びの場としては絶好のスポットです!

万葉の館

万葉の館の売店では、樟城のわさびアイスや神護のアマチャなどの特産品も購入できます!
(わさびアイス: とのまる通信3号の特集)
(神護のアマチャ: とのまる通信9号の特集)

宮ノ下小学校

宇倍神社

国府町役場

万葉歴史館

水辺の楽校

殿ダム工事事務所

三洋稲穂

殿ダム周辺は
おもしろい!

殿ダムはあなたのそばでついています!

JR鳥取駅から
殿ダム建設予定地まで車で約30分(約14Km)
市内から意外と近い殿ダム建設予定地。一度立ち寄ってみてください。





千代川フェスティバル2003開催



水面がこんなに近いなんて…、アメンボウになった気分！

カヌーの体験もできます！

毎年8月24日は千代川の日！今年は「川で遊び、川で学び、川で安らぐ」をテーマに、用瀬町で行ないます。魚のつかみどり、降雨体験、カヌー体験の他、千代川の楽市楽座など楽しいイベント盛りだくさん！また、幼児はくぎづけ、大人も爆笑する「とのまるげきじょう」も公演しますよ！流域の河童たち、24日は千代川フェスティバルに集まれ！

●日時：8月24日(日) 10:00~15:00

●場所：用瀬町 カヌー水辺公園

●主催：千代川流域圏会議

県庁から殿ダム工事の今(動画)が見られます！



『殿ダムインフォメーション設備』の画面

殿ダム工事現場に設置されたテレビカメラを、現場に行かずとも、あなたが操作し、殿ダム工事現場の今の映像や、周辺の状態(気象や川の映像)をリアルタイムで見ることができる『殿ダムインフォメーション設備』を、県庁1階県民室にも開設しました！

工事状況の他に、全国及び鳥取県全域で降っている今の雨の状況や、女優の田中ひろ子さんが因幡を旅した番組なども見られますよ！使い方は簡単ですから、ぜひ一度使ってみてください！

『殿ダムインフォメーション設備』は、現在、県庁県民室の他、国府町内の各学校や各地区公民館、役場など15箇所に設置しています。



『休みの自由研究に！』

千代川の行徳地点などの水の量を見ることが出来るから、この設備を使って、袋川の水量の变化について調べられるよ！



県庁県民室入口に設置。

殿ダム建設にまつ 移転者ご家族の今を紹介するコーナー

今回の元気がいな！

谷岡利彦さん シズ子さん



新居前にて谷岡利彦さん(左)とシズ子さん(右)

殿ダム建設に伴い、平成10年楠城集落から国府町玉鉾に移転された谷岡利彦さんご家族(7人)。

「おおかた70年は楠城に住んどったですから、そりゃ、村から出とうなかったです。でもしかたない出たんですけど、最初の1年は淋しかったですわいな。けど、町(役場)も、近所の人もよ～してかあさって(よくしてくださって)、すぐに心やすうになりました。」と語る利彦さん。

また、妻のシズさんは「こちらに出る時、楠城の人達がバスで松江まで連れて行ってかあさり、お別れ会してくれたです。その帰りわたしらはこの新しい家で降ろされたんですけど、もう1度そのバスに乗って、楠城に連れて帰って欲しいと思ったほど、淋しゅうて淋しゅうて…バスの後ろ姿見ながら泣いたです。」と語る。

引っ越して約5年経つ今でも、楠城の人や風景、楽しい思い出を夢に見るシズ子さん。月2回拾石の普賢寺で行なわれる御詠歌を習う会に参加し、その時ばかりは友達と昔話に花が咲く。

また利彦さんは、2～3日に1度は楠城に上がり、田んぼの管理をされている。

お二人共、「今こうしていられるのは、先祖さんのお陰」と言い、手を合わされる姿が印象的だった。

昔の写真を見せてください！

鳥取市内や国府町内の昔の河川工事の作業風景や、洪水被害の写真をお持ちの方は、ぜひ、見せてください！また、川にまつわる恐怖体験や思い出話などもどしどし教えてください。



お問い合わせ＆お便りのあて先

国土交通省 中国地方整備局 殿ダム工事事務所
とのまる通信編集部
〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1221
TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612